

小さい抗議

永宮健夫 (阪大基礎工)

物性研究4の5で名古屋大学特集を面白く拝見しました。特に伏見先生の意気さかなな昔話しを読ませていただきましたが、伏見先生の博覧強記にもかかわらず、私と同じく年のせい、時折誤りがつたえられます。私が一次元の condensation の話をして論文になり (Proc. Phys.-Math. Soc. Japan 22, 705, 1034 (1940)) 高橋さんが一次元で condensation を起すのはおかしいといつた由は誤りで、私が一次元で状態和の面倒くさい計算をして状態方程式を作り、condensation は起らないことを示しましたら、高橋さんは

$$\int_0^{\infty} (\text{状態和}) \times e^{-pV/kT} dV$$

(但しVは一次元の体積、すなわち長さ) を求めれば面倒な計算はいらないと示されただけです。高橋さんの論文も印刷されています。ついでですが、この私の論文は割に読まれ、その頃京城で4捨5入の誤差論をやっておられた宇野利雄さんからお手紙を頂いたり (というのは、その誤差分布の関数を、知らずにその中で導出していたものですから) Prigogine に12年後に会ったときよく覚えていてくれたりしました。

伏見さんは卒業後、東大物理の助手を1年間つとめられ、私は東大工学部数学力学研究室の助手を3年間つとめたのですが、その頃、同研究室には山内さん、犬井さん、私の3人が常住で、小谷先生はよく見えました。既に理学部助教授になつておられました (私ら3年生のときに移られました)。この辺の伏見さんの御記憶もあいまいで、工学部に出向いては、いちめられた、ということですが、実際には私と一緒にPauliのRelativitätstheorieを読んだとき以外、あまり来られませんでした。阪大に移られてからは、上京の度に寄られ、山内さんとやり合つておられました。たぶんその印象が助手時代に superpose されているのでしょう。3年前の"自然"に今回の談話の一部が書かれていますが、その頃、つまり伏見さんの助手時代に、私が東京高等学校

ニュース・プレプリント

の先生ということになっています。つまらないことですが。

ついでに、志水さんの話の中で、Cr のネール点で転移が first kind だと非常に困るとのことですが、どうして困るか知りたと思いました。昨年の Nottingham Conference で私は first kind の可能性があることを述べ印刷されているのですが。 (1965, 9月)

ニュース

- | | |
|--------------|----------------------------|
| 三井惟靖氏 (北大) | 8月31日アリゾナ大学より帰学 |
| 福島正久氏 (北大) | 7月1日付で名大物理教室へ転出 |
| 秋山盛雄氏 (北大) | 9月より北大物理結晶物性研究室助手として赴任 |
| 田中基之氏 (京大) | 10月1日付で岡山大助教授として赴任 |
| 川崎辰夫氏 (京大基研) | 京大物理教室助手となる。 |
| 金徳州氏 (東大) | MIT の National Lab. へゆかれた。 |

プレプリント

- Interaction of Phonons with Paramagnetic Centers and the Phonon Maser (E. B. Tucker)
- Phonons in Metals (W. A. Harrison)
- Magnetic Properties of Nearly Free Electrons II de Haas-van Alphen Oscillation for a Simple Model (M. Lawrence Glasser)
- The Chapman-Enskog Solution of the Generalized Boltzmann Equation (Leopoldo S. Garcia-Colin, M. S. Green and F. Chaos)
- The Spin-Orbit Interaction in Metals and Semiconductors. (A. O. E. Animalu)
- Note on the Transport Coefficients of a Moderately Dense Gas